

(山崎) また、当市では、市社協が市民児協事務局を担っています。各職員は、それぞれいくつかの担当地区を持ち、その地区の民児協と社協を同じ職員が担当していますし、必ず月1回行う民児協の定例会に出席しています。

地区ごとの温度差は、それほどないように感じていますが、課題は地区社協と地区民児協の区域が異なり、1つの地区社協に複数の地区民児協がまたがってしまっていることです。

木野 匝瑳市でも、地区社協の役員・構成員には、地域の様々な団体の方に担っていただいておりますが、その中核は民生委員です。他団体のような短い任期の方とは異なり、継続して活動を行っていただけるというのが大きな理由です。民生委員がいないと、地区社協は機能しないというのが現状です。

地区社協の活動については、各地区によって温度差がありますが、1つの小学校単位の中で、こんなにいろいろな団体が集まるといのは、地区社協しかないと思っています。

羽田 鴨川市の地区社協活動は、11ある地区によって、その活動の差は大きく、実に様々です。

ある地区では、年に1度の老人会や毎月のお弁当配達を行い、また別の地区では新聞・広報紙の発行を行ったり、自主財源を確保できているようなところもあります。

また、地区社協の構成員は、民生委員が全般的に参加しているところもあれば、きちんとした役割分担のもと、地域ボランティアや有志の方たちと協力している地区もあるなど、地域差があります。

榎本 鴨川市での課題は、地区社協活動が活発な地区ほど、その民生委員が忙しくなることです。行政と市社協が、何かの事業を地区で取り組む際、どうしても民生委員が主体となるため、活動量が増えてしまいます。

大野 流山市では、民生委員になるのと同時に、各地区社協の構成員となり、サロンをはじめとす

る活動に積極的に協力しています。

ただ、福祉の向上を目指す地区社協と協力し合うことは非常に大切ですが、民生委員が地区社協の活動を担いすぎている面も見受けられ、やりがいがある反面、(民生委員以外の)担い手を確保していただきたいところもあります。

榎本 長く委員をやっている方は、民生委員活動も地区社協活動への協力・参加の意味もわかっているので大丈夫ですが、新任委員には民生委員活動と地区社協活動のラインがわからないと思います。そうすると、どうしても負担感とストレスを感じてしまうものです。ある程度、納得の上で活動してもらわないと、せっかくの人材を失うことになってしまいます。ですから、新任委員には、まず民生委員としての役割や活動を覚えてもらうことを優先させた方がいいと思います。

民生委員が、地区社協の母体となり全部引き受けてしまうと、これから見守り世帯がますます増えていくにつれて、要支援者の見守りもできなくなってしまいます。

行政・社協とうまく連携していかなければなりません。地区社協の役員には、1、2年で交代してしまう団体の人だけではなく、長く続けていただける一般の方も入れていかなければいけないと思います。

もし、全て民生委員が背負ってしまった場合、万が一の時、民生委員その人がいないと大変なことになると思います。何かあった時、地域で見守ることができるような体制(マニュアル)を作っていく必要があります。

羽田 実は、前回の一斉改選時、はじめは多くの民生委員が継続することに二の足を踏んでいるところがありました。当時、都会だけのことだと思っていた「高齢者の孤立死」問題が、市内でも起きたことが大きかったように思います。周囲から「民生委員は何をしていたの?」という声も出てきてしまい、民生委員が非常に辛い思いをすることがありました。

それと同時に、概ね半数の方は、民生委員活
(P14へ→)